

研究計画書

ゼミ名	杉村ゼミⅡ	チーム名	ミドリムシ
タイトル	WLB について追求した結果		
テーマ群	c) 公共経済		
メンバー	新井健大、岩下靖歩、岩月雅治、角野莉欧、鎌田祐憲、川島正堯、古西亮真、阪田侑紀、篠原康一郎、武田伊織、竹村洋祐、中田晴香、直川真季、平野雄大、深川奈那、堀越滉平、涌田太樹		
研究計画内容	<p>「ワークライフバランス」という言葉を聞いた時、皆さんはどのようなことが思い浮かびますか。私たち、杉村ゼミは、昨年から日本の労働問題について学んできました。その中でも特にワークライフバランスに興味を持ち、理想の働き方について研究してきました。</p> <p>【研究の目的】</p> <p>現在日本では、家庭を持った後も働きたいという女性が増えています。そういう女性を支援する制度は、少しずつ整ってきてはいるものの、「男性は外で働き、女性は家で家事をする」という固定観念は、未だ世間に根強く残っています。これによって、制度があっても利用しにくかったり、十分な制度が整えられていなかったり、という問題があります。この結果、個人の生活と仕事の調和を困難にしているのが現状です。</p> <p>【研究の方法】</p> <p>私たちは株式会社ノーリツに赴き、女性ワーキングのリーダーで、自らも2人の子育てをしながら仕事を続けている女性幹部の方とディスカッションを行うことによって、ワークライフバランスに関する課題を明らかにします。また、アンケートを取り、男性の視点と女性の視点の相違点を分析し、上記で述べた固定観念が根強く残っている原因を追究します。これらによって、固定観念を完全に払拭出来なくても、見つめ直し、緩和することが出来るような解決策を提案します。</p> <p>【研究の成果】</p> <p>解決策を提案することにより、女性が働くことに対しての男性の理解を深めます。また、働きたいと考える女性がより働きやすい職場環境を整えます。</p>		